鹿富士が大関昇進となれば、鹿賀乃戸部屋からは鹿皇以来のことで、一時期、幕内力士がいなくなった鹿賀乃戸部屋としては悲願なるかといったところだろう。

これに加えて、大関候補に名乗りを上げるのは、今場所８勝をあげた元大関の鬼ヶ嶽と綱乃花だ。鬼ヶ嶽は前へ出る出足が復活して、先場所の７勝に続き今場所８番勝って来場所は関脇に昇進するものと思われ、十両まで落ちた男が再大関に向け復活の狼煙をあげた。

鬼ヶ嶽○（押し倒し）●出羽翼

友砂親方が「大関、横綱！」と期待する綱乃花は順調に力をつけ、先場所の８勝に続いて今場所も８番勝ってそのポテンシャルを発揮した。来場所は三役への昇進が確実で、いよいよ上位すべてと対戦する場所となるだけに真価が問われる場所となる。師匠の友砂親方も「どこまでやるか今から楽しみだ！」と期待を膨らませている。

綱乃花○（寄り切り）●朱雀湖

その一方で、大関候補の一番手と言われていた関脇出羽翼が３勝８敗と大負けして、３場所守った三役の座を明け渡すことになった勝間田部屋は出羽翼を筆頭に幕内に９人いながら、来場所は三役不在の場所となる。幕内力士の数は多いが「大関を目指せる力士が誰なのかがわからない」というのが勝間田親方の悩みどころだ。

九日目まで７勝２敗と優勝争いを演じ、敢闘賞を受賞した入幕２場所目の西神門。前頭十二枚目でありながら八日目に大関大神楽と対戦、以降３日連続で三役との対戦となったにも関わらず、８勝３敗で終えたのは潜在能力を感じさせる。来場所以降にどういった活躍を見せるか注目したい。

西神門○（押し出し）●鹿富士

鬼ヶ嶽の活躍に刺激されてか、同門の元大関照の王が５連敗のあと６連勝して勝ち越し気を吐いた。来場所は久しぶりに横綱大関と対戦する位置に上がってきそうで、楽しみな取組が見られそうだ。

照の王○（引き落し）●玄武岩

千秋楽打ち出し後に開催された理事会での議題は大関千代鈴の横綱昇進についてであったが、もう一つ議題に上がったのが関脇佐賀ノ海の錦風部屋から黒雲部屋への移籍についてであった。予てから錦風親方（元関脇鎧里）との確執があり、協会に移籍願いが提出されたもの。

いろいろと議論があったものの、最終的に承認された。これにより、来場所の錦風部屋の関取は横綱若ノ嶋一人となり、また、本場所土俵で若ノ嶋と佐賀ノ海の対戦が見られることになる。若ノ嶋は「佐賀関の移籍は残念だが、来場所での対戦が楽しみ」と語った。

来場所は千代鈴の横綱昇進で、３横綱１大関の番付となる。初土俵以来、負け越し知らずで、通算勝率０・８２６、幕内勝率０・７７９と高勝率で角界最高位に上りつめた大器が横綱としてどのような相撲を見せるか、土俵入りも含め楽しみだ。千代鈴の土俵入りは雲竜型になる模様。

今場所、途中休場した若ノ嶋、春ノ翔の両横綱も来場所に向けての調整に余念がないようであり、３横綱１大関を中心とした優勝争い、次の大関争いなど、来年の紙相撲界も大いに盛り上がること間違いなさそうだ。第１５８回本場所初日は令和５年１月９日開幕の予定。乞うご期待。（錦風）

春日根親方談

「先代親方の西の海が昭和５１年９月第４４回に初土俵を踏んで以来４６年間、途中力士が途切れたこともありましたが、歴代理事長及び皆様の暖かいご支援のもと春日根部屋を継続することができました。

そしてついに来場所では愛弟子千代鈴が部屋創設以来初めて悲願の横綱へと昇進することになりました。

これからは横綱として恥じることない相撲を取らせるよう更なる指導を徹底して参ります。どうぞ引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。」

更なる活躍を誓う春日根親方

千代鈴関談

「ありがとうございます。親方の指導を忠実に受け続け、荻窪かっぱで大好物の焼きとんをたらふく食べて力をつけて、歴史に残る名横綱になるよう精進いたします。」

御嶽灘　五人戦を制す

十両は３敗で５人による決定戦となり、激戦を制した伏兵の御嶽灘が新十両で見事に優勝を飾った。

十日目、２敗で並ぶ桃乃洲、駒波、蛮国の３人が優勝争いを繰り広げる中、ただ一人白星をあげて２敗を守ったのは駒波。敗れた桃乃洲と蛮国は３敗を維持した剣将、渡海、御嶽灘とともに一差で追う展開となって千秋楽を迎えた。

駒　波○（押し倒し）●西富士

駒波が勝てばすんなり優勝となり敗れる様ならば最大６人での決定戦になる事も考えられる。そして優勝がかかる駒波と対戦相手となる渡海が土俵に上がる。３敗の渡海はこの一番に勝って駒波を引きずりおろして決定戦に持ち込みたいところ。

東方の花道の奥から朝日松親方が見つめる中、互角の立ち合いから攻防を制した渡海が押し倒しで駒波を破り、決定戦決着を確定させた。

他の３敗勢では剣将が幕内の生駒山に敗れて唯一の脱落、これにより５人による決定戦にもつれ込んだ。抽選の結果、桃乃洲の最初の対戦が回避され、まずは駒波と御嶽灘が対戦。本割で敗れている駒波はリベンジを期したが、またしても御嶽灘に軍配。その勢いを駆って桃乃洲と渡海を下した蛮国を引き落としに破って御嶽灘が優勝をもぎ取った。

渡　海○（押し倒し）●駒　波

蛮　国●（引き落し）○御嶽灘

場所前は徳ノ富士に一心に期待をかけていた桐壺親方だったが、御嶽灘の優勝に「全くこれぽっちも期待してなかったんだけどね、わかんないもんだね～」と嬉しい誤算となったが、来場所にその真価が問われそうだ。

十両の５人による決定戦は１３１回場所以来、実に９年ぶりのこと。この時も８勝３敗で磯昇、名護、琴乃王、響岩、美空富士の５人による決定戦となり、美空富士が優勝している。

悲願の幕内昇進をかけるのは東三枚目の櫻吹雪。愛弟子の応援のために大阪から住之江親方が初めて本場所の観戦に訪れた。早速国技館を目の当たりにして、「いやー、これは感動もんですねー」と唸る住之江親方。紙相撲ファンなら一目見れば誰もがその佇まいというか、精度な作りに感嘆するというもの。更に、親方が生の櫻吹雪の締込み姿を見るのも当然初めて。

練馬国技館初参戦の住之江親方（左）　右は北海道から参加の霧ヶ浜親方